

2015年12月11日

学術俯瞰講義「クールヘッド・ウォームハート みえない社会をみるために」

第13回 講義のまとめー「みえる」と「みえない」のあいだで

玄田 有史

1. 印象的な感想（抜粋）

「希望と幸福の両輪で生きていく」という言葉が印象的でした。どんな場面においても当てはまることだと思います。（玄田）

共通性と独自性を考慮して相互理解するというアプローチは新たな発見だった。（佐藤）

映像の中で、社会が障害者を作っている、という考え方にはハッとさせられました。（小国）

思っている以上に、情報は公開されているのだと思った。企業の損益収支がインターネットから閲覧できると知り、「見えない」のではなく「見ようとしない」のだと気づいた。（米山）

一億総中流社会、という言葉は聞いたことがある程度でよく中身を知らなかったが、社会の右上がりの見通しがその背景にあった、という話にとっても納得した。（白波瀬）

私達は今食べている食料について、それがどのようにしてやって来たのかというイメージが持てていなかったと思う。（藤原）

リスクテイクは経済活動、といわれて、とにかくリスクを避けるのではなく、適度なリスクを見極めることが重要であるということに気づかされました。（宮尾）

従来の日本的雇用環境の良い側面と悪い側面があることを認めねばならないと思った。（宮本）

「平和」というものが、全員がハッピーで平和、というより、互いにしのぎを削りながら緊張した関係性の上に成り立っている、という現状を思い知った。平和の尊さを痛感した。（石田）

頭でロジックを読み取るだけでなく、その思想家の心の底に流れている問題意識を汲み取る事が重要だと感じた。（宇野）

2. 全体を通じて

「みえない社会」は、多くはみえていないということ自体が、みえていない（気付かれていない）のではないだろうか。

クールヘッドが、みえないものをみようとするための知性だとすれば、
ウォームハートは、みえないものをみようとするための想像力なのではないだろうか。

では「みえない」と「みえる」のあいだにあるものとは？－最後の事例